

地域の世代間協働による生涯現役支援の実践的研究

研究内容

少子高齢化や人口減少、価値観や生活様式の多様化などにより、人や地域（密住地も疎住地も）は健やかで活気ある暮らしに危機感を感じ、課題を抱えている。健やかな生活や人生を送るためには、個々が自律することが重要であると同時に、人々が交流し互いを知り、支えあうことが必要になる。これまで「弱者（高齢者・子ども・障がい者など）支援」が多く述べられてきているが、「弱者」と呼ばれる方にも「自分の健康や生活を管理する（セルフケア）能力・人を支える能力」は備わっていると考えられる。

子どもの健やかな成長、高齢者の生きがいのある生活、障害がある人の自律した生活などを地域や団体、企業などと協働で目指す。これまで実践してきた研究成果や連携を活かし、学生参画型による自律的で持続的な暮らしやコミュニティを創り出す実践的活動と研究を行う。

地域・産学連携の可能性

高齢者や子ども、疾病や障害がある方などの健康(well-being)維持やQOL (quality of life)向上に関する活動や研究を協働で実施する。

地域の企業や団体と共にワークショップやセミナー、子どもやその親を対象とした育成や教育活動、高齢者対象の生涯現役を目指した活動などがある。超高齢社会や過疎化地域の抱える課題は、その集団だけでは解けないことが多く、第三者の介入や異世代（大学生等の若者）の参画が有効なこともある。またその個人や集団は、自らの持つ能力に気づかず、第三者がその力を引き出す支援をすることも重要であると捉えている。上記のソフト面を重視しつつ、ハード面として高齢者や子どもを対象とした商品開発も行っている。商品を使用する消費者を理解し、ニーズやリスクを把握することも実践してきた。目的や対象者を正しく評価分析しニーズに応えることが重要である。

このテーマに関連する
東北SDGs研究実践拠点

防災・減災技術研究拠点、医工学・健康福祉研究拠点
地域・地場産業振興研究拠点

このテーマに関連する
プロジェクト研究所

地域のくらし共創デザイン研究所
マーケティングサポート研究所、AiR 研究所

このテーマに関連するSDGs開発目標



仙台市八木山地域にて地域包括ケアを目指した「八木山ハーブまちづくり活動」



児童対象防災教育での学生の活躍



岩手県西和賀町北部にて自律したまちづくりに向けてのワークショップ



ライフデザイン学部 生活デザイン学科 地域デザイン、地域看護、がん看護

伊藤 美由紀 ITO Miyuki

准教授 修士（看護学）

http://www.rc-center.tohtech.ac.jp/department/project/lab/lab_10.html

執筆論文

伊藤美由紀 畠山雄豪 小嶋三男 地域活性化活動による地元住民とその支援者の意欲 - 仙台市西部地区を対象としたQOLの向上を目指した実践的研究より- 東北工業大学地域連携センター・研究支援センター紀要 EOS Vol.32 No.1 p.67-76 2020.01

